

寄稿 SAKAMINATO FISH AMBASSADOR

インドと境港の架け橋に

境港フィッシュ(FISH)大使 二宮 祐

18歳で境港を出て、東京へ移り、学生生活と海外放浪を経てサラリーマンになりました。そして、



日本国内も含め、様々な国、人、文化に触れながら、泣き、笑い、怒り（笑）ながらも、様々な経験を経た後、現在はインド・ビジネスをライフワークと決めて、家族ともどもインドに住んでおります。その一方、自分のアイデンティティーというのはこの境港で作られたのだな…と、ことあるごとに感じています。

インドというと、IT産業、貧困、牛、カレー…などが、まだまだ多くの日本人の持つイメージかもしれません。

しかしながら、インド最大の商都で港を持つムンバイでは、捕れたての動いている蟹をハンマーで割り、大なべに入れてスパイスを加え、さっと炒めます。それをムンバ

イの男女は両手で食いつき皆、無言となり、殻はテーブルに山積みです（まるで、境港の食卓）。

また、同じく漁港をもつチェンナイの海岸には、魚を開いて干物をつくる光景があり、そこを走り回る子供たちは「インドのハマベン」をしゃべりながら、捕った魚を市場に売る（まるで境港の魚市場！）と、私の中で境港での原体験がインドの地で鮮明に再生されるの

です！

異国のインドと境港の架け橋に私ができることで、人と人との交流が生まれ、新しい文化・経済の流れとして何か故郷に貢献できるなら、私にとってこんな幸せなことはありません。

どうぞ皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

「ゼンリン・インド支店・支店長、境港市出身、インド・グルガオン在住」